

(公財) 国際宗教研究所 宗教情報リサーチセンター

The logo for RIIRC (Religious Information Research Center) is a light yellow circle containing the acronym "RIIRC" in a bold, green, serif font. The letters "R", "I", and "I" are connected, as are "R" and "C".

**RIIRC**

宗教情報リサーチセンター

## 「ラク便利」研究ノート・小特集

→他の研究ノート・小特集のバックナンバーは**こちら**をご覧ください。

\*印刷してご利用の際は2頁目以降を印刷して下さい。

研究ノート

## 韓国新宗教学会編『新宗教研究』第1～20輯の 目次紹介

李 和珍

### はじめに

2009年2月7日に、國學院大學学術メディアセンターを会場に「東アジア新宗教国際学術会議—東アジア新宗教研究と情報リテラシー」が開催された。この学術会議は、複数の組織、プロジェクトの共催で実施されたが、宗教情報リサーチセンターの開設10周年記念事業の一つともされていて、同センターは会議を後援した。

この会議では、井上順孝センター長が基調講演をし、高橋典史研究員と塚田穂高研究員が研究発表をおこなった。日本側は合計3人が発表した。一方、韓国新宗教学会からは、5人の会員の研究発表があった。

日本で会議が開かれたということで、李璟雨(イ・キョンウ)会長より日本側にこれまで刊行された学会誌である『新宗教研究』の創刊号から最新号の第19輯までが寄贈された。

韓国新宗教学会はまだ新しい学会であるので、同学会について、そのホームページ(<http://www.newreligions.org/>)を参照し、ごく簡単に紹介する。1998年12月に設立され、1999年3月に創立大会を開くなどの活動を開始し、現在に至っている。韓国新宗教学会の設立と宗教情報リサーチセンターの設立がほとんど同じ時期であるのは偶然かもしれないが、興味深い。

韓国と世界の新宗教を研究して診断すること、定期的な学術発表を経て学術誌を刊行することで、人類の健全な精神文化の創造に寄与することを目的としている。

主な事業は、①新宗教の調査研究、②学術誌及び関係図書刊行、③定期学術会議(春・秋年2回)及び講演会議開催、④国際的な研究交流、⑤関連資料収集、分類、保存、展示活動、⑥新宗教研究に関連した教育機関の設立推進などとされている。

寄贈された『新宗教研究』は、同学会の機関誌であり、年2回の発行で、1999年12月に創刊号が出されている。会議のときには第19輯までが刊行されていたので、そのすべてが寄贈されたのだが、その後、2009年4月に第20輯が発行された。その目次はホームページで知ることができる。

機関誌を見ると、韓国の新宗教研究者がどのような研究を行ってきたかがよく分かる。そこで寄贈を受けたのを機会に、ここに掲載されている論文や講演、教団研究、書評、新宗教教団資料などの傾向を紹介し、また目次を創刊号から第20輯に至るまでを日本語に翻訳する。タイトルによって、韓国における新宗教研究の動向が、おおよそ分かるからである。

### 1. 『新宗教研究』の内容の傾向

『新宗教研究』は、特集、研究論文、教団研究、新宗教資料、書評などによって構成されている。特集は毎号組まれているが、それぞれの特集のテーマから、韓国新宗教学会がどのような研究を目指しているかが分かってくる。特集のテーマは、形式的に分けると大きく2つのタイプがある。

1つは、学術大会の討論内容の紹介である。

たとえば、第1輯は「新時代の新宗教」、3輯は「1970年以降の日韓新宗教の現状と展望」、20輯は今回開催された「東アジア新宗教国際学術会議」がテーマとなっている。これからの社会変化によって新宗教がどのように変わるか、あるいはどのような役割を果たすのかというような視点がある。

もう1つは、新宗教が直面している個別の研究テーマをとりあげるというものである。具体的には、平和統一、易と現代社会、予言、文化芸術、檀君、巫俗、道教、治病と教化、修行、社会変革、経典、ポストモダンなど、かなり幅広いテーマが対象になっている。

特集以外の研究論文、教団研究、新宗教資料などは、扱われているテーマは非常に多様であるが、大きく3つに分類することができる。

1つは韓国の新宗教に関連した研究であり、これが大半を占める。この場合、宗教社会学とか宗教人類学的な研究は非常に少なく、ほとんどは思想、教理、儀礼などの解釈になっている。対象となっている教団としては、統一教（日本では統一教会と表記するのが一般的である）、大巡真理会、甌山教が多数を占めている。次に多いのが金剛大道、水雲教、圓佛教、大倧教、普天教である。その他、天道教、弥勒大道、覚世道、太極道なども少数ある。この他、キリスト教、仏教、檀君神話、東学、仙道思想、道教、儒教、巫教といったものと関連した研究もある。

2つ目は、韓国以外の宗教に関する研究である。日本の新宗教研究への注目は特徴的である。1、2、3、7、8、9、10、11輯に、天理教の伝来過程、布教活動、大韓天理教の創設・初期活動、中山みきの思想などの研究がある。天理教についての研究がかなり多いことが分かる。日本との研究交流を示す論文なども見られる。日本人研究者の論文が12、15、20輯に収められている。

日本以外では、中国の宗教についての研究が少しある。中国の民間宗教との現況と課題

を扱ったものなど、中国人研究者の論文が、15、20輯にある。その他、スリランカ仏教の意識に関する研究が4輯にあり、また3輯にはドイツの事例をあげながら、新宗教を否定的にとらえ、新ナチズムとみなすような研究もある。

3つ目は民俗信仰、俗信、その他への関心である。呪文、符籙信仰、風水、韓国の国旗である太極旗の意味、終末論、韓国心霊集団、平和論、道徳、清水文化に関連する研究など、これもけっこう多様である。

宗教社会学的な分析は少ないけれども、8輯には意志疎通構造からみた新宗教の意味を扱った論文があり、これは社会学的な視点が含まれていると言える。

このように、『新宗教研究』の内容によって、韓国新宗教研究の動向がかなり把握できる。どのような教団が注目され、どのような問題意識を持って研究が進められているのかが見えてくるからである。そうはいつても、これによって、韓国の新宗教の現況や傾向などをすべて把握することはできない。また、日本の新宗教研究で行われている方法を導入することで、同じ教団でも、違った分析ができるのではないかと思える。

以下に、『新宗教研究』の1輯から20輯までの目次を日本語に翻訳する。これによって日本人研究者が韓国における新宗教の研究を行うときに、少しでも役立てばと考えたからである。

## 2. 各号の論文等のタイトルの日本語訳

### 第1輯（1999年12月発行）

<創刊特集 韓国新宗教学会 第1回学術大討論会：新時代の新宗教>

・学術討論会

第1テーマ 新宗教とは何か。

第2テーマ 韓国の新宗教はどのように研究されてきたのか。

第3テーマ 韓国の宗務行政と法制、このまま

でよいのか。

第 4 テーマ 韓国新宗教の社会的役割とビジョン  
<研究論文>

- ・新宗教と新宗教学 (ユン スンリョン)
- ・新千年は新宗教の世紀なのか? (パク・キュテ)

・セジュパ(新主派)の略史 (チェ チュンヒョン)

・韓国新宗教の未来と役割: 金剛大道神論  
(チョン セゴン)

・金剛大道の午中運度思想と新時代のビジョン  
(イ ゼヒョン)

・韓国仙思想の脈 (ファン ソンミョン)

・韓国の新宗教と呪文 (イ キョンウ)

・人間墮落の性的理解: 現代神学と韓国心霊集  
団での墮落説話の解釈 (キム ハンゼ)

・太極旗が未来人類に送るメッセージ (キム  
ヨンジク)

<教団研究>

・天理教の韓国伝来過程に対する考察 (チョン  
ミョンス)

・天尊会「真理の像」気測定と作用効果に対す  
る考察 (キム キョンヨン)

## 第 2 輯 (2000 年 5 月)

<特集: 普天教>

・失われたコミュニオン: 普天教成立の歴史的性  
格 (ファン ソンミョン)

・チャウォルゴク(車月谷)の出生に関する小考  
(アン フサン)

・風水と地名で見た井邑の宗教的象徴性: 普天  
教を中心に (キム ゼヨン)

<研究論文>

・東学の教団分裂と韓国新興宗教 (オ ミョンム)

・東学理念と 21 世紀の新しい統一パラダイム定  
立 (ペ ヨンギ)

・発生状況を中心に見た新興宗教の超階層的性  
格 (チェ チュンヒョン)

・新宗教の宗教統一論研究: 統一教と甌山教を  
中心に (キム ハンゼ)

・韓国宗教史における甌山教と民間信仰の出会  
い (キム タク)

・日本の組合教会と日本帝国主義: 日本の組合  
教会の朝鮮宣教を中心に (チョン ソンハ)

<教団研究> (大韓天理教)

・韓日統合前後の天理教布教活動に関する考察  
(チョウ ミョンス)

## 第 3 輯 (2000 年 12 月)

<特集: 2000 年春季定期学術大会—1970 年代  
以降の韓・日新宗教の現況と展望

・1970 年代以降の韓国新宗教の現況と展望 (イ  
ゼホン)

・日本の現代宗教に関するいくつかの争点: 精  
神世界・心霊性運動・新新宗教 (パク キュテ)  
<研究論文>

・ハンエノクの終末論: 韓国新宗教史への編入  
のための試稿 (チェ チュンヒョン)

・新宗教の否定的範疇 (die negative Kategorie)  
から見たシンナチズム (Neonazismus) の意味: ド  
イツの場合を中心に (チョン ソクヒャン)

・朝鮮時代の儒教的法律と宗教の葛藤 (クオン  
スン Chol)

・無極道における労働の概念に関して: 太極教  
の希望と挫折 (ファン ソンミョン)

<教団研究>

・水雲教の沿革および教理概観 (ピョン ムンホ)

・3.1 独立万歳運動以後の天理教布教状況 (チョ  
ン ミョンス)

## 第 4 輯 (2001 年 5 月)

<特集: 平和統一と新宗教の役割>

・南北交流と新宗教の課題 (ユン スンヨン)

・平和統一と大倥教 (ウオン ヨンジョン)

・韓半島の平和統一と圓佛教 (パク コァンス)

・南北統一運道と統一教 (キム ボムヨン)

<研究論文>

・弥勒信仰と弥勒大道 (カン トング)

・甌山教と震黙大師 (キム バンリョン)

・‘21 世紀宗教人の普遍倫理’構想 (キム ハ  
ンゼ)

・上座部仏教の意識に関する小考: スリランカの  
仏教を中心に (ソン ウィジ)

- ・普天教の十一殿と曹溪寺の大雄殿 (アン フサン)
- ・韓国近代新宗教に見られる先・後天論の特質：大巡信仰を中心に (イ キョンウォン)
- ・ファンクッキョ (黄国柱) ‘新エルサレム巡礼’の年度に関する小考 (チェ チュンヒョン)
- <新宗教資料>
- ・覚世道の創道および教理に対する考察 (ユ トクフィ)
- <書評>
- ・キリスト教系新宗教研究の新たな地平『韓国メシア運動史研究』(パク サンオン)
- ・物語として語られる宗教経験『韓国人の宗教経験—天道教・大倥教』(ユ キプム)

### 第 5 輯 (2001 年 11 月)

- <特集：易と現代社会>
- ・易と現代社会 (ファン ソンミョン)
- ・韓国易学思想の概観 (イ チャング)
- ・朝鮮時代の四柱命理学と反乱事件 (チョ ヨンホン)
- ・甌山思想から易をどう見るのか (ホン ボクチョ)
- <研究論文>
- ・大巡思想に見られる人間主体に関する研究 (キム ソクハン)
- ・普天教の本所建築物の行方 (キム ゼヨン)
- ・東学と生態問題論議に対する批判的理解 (キム ハンソプ)
- ・イトアム (李土庵) 先生の道徳開化思想 (イ ゼホン)
- ・ハンチョンサン (韓宗山) の宣言文の中で提示された最後審判の時 (チェ ジュンヒョン)
- <新宗教資料>
- ・統一教の原理強論の構造的な理解 (キム ハンゼ)
- ・告天文 (イ フィテ)

### 第 6 輯 (2002 年 5 月)

- <特集：新宗教と予言秘訣>
- ・運勢と運命観の時代的推移：秘訣と予言の現代的意義 (ファン ソンミョン)

- ・仙道系列の予言をどう見るか (アン フサン)
- ・西洋終末思想の展開過程で見られる特徴 (チョン ソクファン)
- <研究論文>
- ・後天開闢の弥勒信仰に関する研究 (キム ヨンファン)
- ・韓国新宗教の生命倫理：統一教と圓佛教を中心に (キム ハンゼ)
- ・水と韓国人の清水文化 (アン ビョンロ)
- ・金剛大道の男女平等論研究 (アン ファンギ)
- ・大巡思想の心体論研究 (イ キョンフォン)
- ・仏教の第 3 修行法の台頭 (イ ヒョンウォン)
- ・カンズンサン (姜甌山) とイエスキリストの女性理解：パニッカル (Panikkar) の見解を根幹に (チョ ウンテ)
- ・キムペップン (金百文) 死後のイスラエル修道院 (チェ チュンヒョン)

- <新宗教資料>
- ・宇宙論に基づいた霊明教理の概要 (キム ワンチュン)
- <書評>
- ・『韓国新宗教とキリスト教』(キム ハンソプ)

### 第 7 輯 (2002 年 11 月)

- <特集：新宗教と文化芸術>
- ・新宗教における文化芸術の現況と展望 (ユンスンヨン)
- ・新宗教と映画 I：イムクオンテク (林權澤) 監督の映画<開闢>の場合 (シン キャンチョル)
- ・新宗教と音楽 (ビョン ギュペク)
- ・新宗教と踊り：新宗教におけるしぐさの美学的構造と思想原理 (イ エジュ)
- <研究論文>
- ・甌山道の清水思想 (アン ビョンロ)
- ・新宗教の解冤思想：統一教と甌山教を中心に (キム ハンゼ)
- ・統一教会の死に対する理解と昇華式 (キル ヨンファン)
- ・儒教と韓国人の宗教心性 (ファン ソンミョン)
- <新宗教資料>
- ・天理教の韓国伝道庁設置に対する考察 (チョ

ン ミヨンス)

### 第8輯 (2003年5月)

<特集:新宗教と檀君>

- ・檀君信仰系列の流れと展望 (オ ビョンム)
- ・韓国宗教史の中での檀君民族主義 (チョン ヨンフン)

・易学と東学の観点から見た天符経思想 (イ チャング)

・大倣教の禪儀式と檀君儀礼 (イ ウク)

<研究論文>

・統一教の理想的な人間像:聖子概念を中心に (キム ハンゼ)

・韓国近代新宗教の社会思想研究:大巡信仰を中心に (イ キョンウォン)

・コミュニケーション(意思疏通)構造を通して見た新宗教の意味:Walter J.Ongの oralityと literacy 概念を中心に (チョン ソクファン)

・Melchizedekの使者 キムユンリョル(金允烈)の使命の道程 (チェ チュンヒョン)

・笠岩山と宗教 (キム ゼヨン)

・韓国巫教を通して見た天地公事の原理および構造 (イ ホゼ)

<新宗教資料>

・天理の世界:天理教とは究極の教えである (チョン ミヨンス)

### 第9輯 (2003年12月)

<特集:新宗教と巫俗>

・韓国新宗教の儀礼と民間信仰の儀礼 (イ ヨンボム)

・済州の巫俗信仰と新宗教 (チョ ソンユン)

・新宗教と巫の関係に対する研究:宗教経験を中心に (チャ オクスン)

<研究論文>

・統一教の自然観理解 (ヤン ピョンスン)

・新しい時間を探して:先天の終結と中天開闢 1080年の到来 (イ チャング)

・東学の成立過程に及ぼした儒学の影響 (イム テホン)

・新宗教の発生背景としての湖南地方の庶民文

化 (ファン ソンミョン)

・新宗教の宗教連合運動:統一教を中心に (キム ハンゼ)

<新宗教資料>

・8.15 光復と大韓天理教の創設および初期過程 I (チョン ミヨンス)

### 第10輯 (2004年4月)

<特集:新宗教と道教(禅道)>

・韓国道教の流れと新宗教 (ヤン ウンヨン)

・法輪功の展開と‘公論場’に対する新たな接近 (チョン ミヨンス)

・韓国新宗教の関帝信仰 (キム タク)

・旌善全氏門中の資料を通して見たチョンビョンフン(全秉薫)の生涯 (イム チェウ)

<研究論文>

・『格菴遺録』李庸世本の底本等に関する小考 (チェ チュンヒョン)

・金剛大道の乾坤父母信仰と生態女性主義 (イゼホン)

・東西洋のハヌル(天)ニム思想:新宗教思想から見たキリスト教と仏教の宗教的天思想 (アン ビョンロ)

・統一教の政治思想から見た政治的現実主義と新現実主義 (キム ハンゼ)

・東学の子供尊重思想に対する考察 (チョ ウンテ)

・甌山宗団の未来:圓佛教との比較の観点から (キム バンリョン)

・伝統的な病気治療法が新宗教に及ぼす影響 (ファン ソンミョン) 新宗教資料>

・異色新宗教探訪 (ファン ピルホ)

・8.15 光復と大韓天理教の創設および初期過程 II (チョン ミヨンス)

### 第11輯 (2004年12月)

<特集I:新宗教と治病>

・新宗教と治病:医療人類学の見地から (キム クァンイル)

・体と治癒そして儀礼の力 (パク サンオン)

<特集Ⅱ：新宗教と弥勒思想>

- ・水雲教の弥勒観研究 (イ チャング)
- ・大華教の弥勒思想 (ユ ソンキョン)
- ・天理教の教義上に見られる轉輪王思想 (チョン ミヨンス)
- ・ハン民道殿と龍華世界 (キム オクスン)

<研究論文>

- ・父母論から見た統一教と金剛大道の比較 (ファン ピルホ)
- ・仏教の中に見られる龍王信仰 (キム バンリョン)
- ・宗教的象徴を通してみた中山みきの思想 (イム テホン)

<新宗教資料>

- ・弥勒仏様の良心・真実・正直の行化神通力で道徳流化の世を創造する弥勒大道 (シソン)

**第 12 輯 (2005 年 4 月)**

<特集Ⅰ：東アジア宗教の生命思想と相生精神>

- ・東アジアにおける相生精神に関して (キム ホンチョル)
- ・“生”の精神：中国宗教の中に見られる生命の意義と生存の知恵 (卓新平)
- ・日本の新宗教と社会活動—宗教協力を中心に (井上順孝)
- ・金剛大道を通して見た相生と和解の糸口 (イゼホン)
- ・水雲教(東学)における生命思想と解冤相生の精神 (イ チャング)
- ・圓佛教の相生思想—四恩を中心に (パク クァンス)
- ・統一教の生命思想と生命倫理 (キム ハンゼ)
- ・更定儒道の相生思想 (ハン ゼフン)

<特集Ⅱ：治病と教化>

- ・治病と教化：イトアム(李土庵)先生の事例を中心に (イゼホン)
- ・仙仏教と治癒修行 (ソン ゼオプ)

<研究論文>

- ・甌山の求道過程からみた神仙思想 (アン ビョンロ)

- ・大巡思想の人間観研究 (イ キョンウオン)

**第 13 輯 (2005 年 10 月)**

<特集：新宗教と修行>

- ・東学系水雲教の修行に関する考察 (イ チャング)

- ・圓佛教の修行方法 (キム ドゴン)

- ・大巡真理会の修行の理論と実際 (イ ゼホ)

<研究論文>

- ・韓国新宗教の特質に関する一考察 (ファン ソンミョン)

- ・韓国新宗教創教者の位格 (キム ハンゼ)

- ・甌山教の相生思想の特性と展開過程 (キム タク)

- ・大巡真理会の‘相生’理念に関する研究 (イ キョンウオン)

- ・新宗教に見られる神仙思想 (ユ スンゴン)

<新宗教資料>

- ・聖徳道の概観

**第 14 輯 (2006 年 4 月)**

<特集：新宗教と修行>

- ・更定儒道の‘修道’に対する一考察 (ハン ゼフン)

- ・天道教の修行の実際：呪文修練を中心に (イ ソンヨン)

- ・大倧教の修行 (ウオン ヨンジン)

<研究論文>

- ・姜甌山の天地公事の宗教的象徴体系に関する研究 (イ キョンウオン)

- ・檀君ハンベゴム(=檀君大皇祖)思想に見られる羅哲の修行観 (アン ビョンロ)

- ・水雲の天主と過程哲学 (イ チャング)

- ・ホンスチョン(洪秀全)の宗教的成功とその思想的背景：彼の宗教体験で見られる道場と刀の意味 (イム テホン)

- ・普天教の教育活動 (キム ゼヨン)

- ・統一教の‘ハナニムに対する語り’ (キム ハンゼ)

<新宗教資料>

- ・日本の如来教

### 第 15 輯 (2006 年 10 月)

<特集：東アジアの社会変革と新宗教>

- ・近現代東アジアの仏教の新しい理念 (魏常海)
- ・戦前期の大本教と道院・世界紅卍字会の連合運道に関する研究 (佐々充昭)
- ・東アジア新宗教運道の歴史的な性格とその変容 (ファン ソンミョン)
- ・‘新宗教’概念の宗教類型論的考察：北米から始まる国際的変化の様相 (キム チョンソ)
- ・韓国新宗教の形成と展開、そして展望 (ユン スンヨン)
- ・韓国新宗教の生態談論と生態思想：東学・圓佛敎・金剛大道を中心に (イ ゼホン)
- ・更定儒道の‘道德文明’に対する試論：代替文明としての可能性を中心に (ハン ゼフン)

<研究論文>

- ・中国民間宗教の現況と課題、そして韓国との学术交流展望 (イ ホゼ)
- ・桓檀古記は真書の中でも真書である (アン チャンボム)
- ・ポストモダン社会の宗教文化に関する省察：ポストモダニズムが宗教に及ぼした影響と展望を中心に (チョン ミョンソン)

<新宗教資料>

- ・世界新宗教国際学術大会の参観記 (ハ チョンピル)

### 第 16 輯 (2007 年 4 月)

<特集：新宗教と経典>

- ・新宗教の経典に対する概説 (ユン スンヨン)
- ・大倧教と天符教 (ナ チョンギル)
- ・金剛大道と経典 (イ ゼホン)
- ・統一教‘原理講論’の形成過程と構造的な理解、そしてその後 (キム ハンゼ)
- ・天地公事を中心に見た大巡真理会『典経』と甌山関連経典の傾向 (コ ナムシク)

<研究論文>

- ・孔子の仁と崔水雲の徳に対する考察 (イ チャング)：克己復礼爲仁と布徳天下を中心に
- ・甌山姜一淳の政治思想に関する研究 (ハ チョ

ンピル)

- ・世界平和統一家庭連合の南北統一論 (チョン ウンテ)

### 第 17 輯 (2007 年 10 月)

<特集：新宗教と経典>

- ・経典の成立過程から見た更定儒道史 (ハン ゼフン)
- ・聖徳道の経典 (ノ チャンギ)
- ・水雲教の経典成立過程に対する考察 (イ チャング)

<研究論文>

- ・良方考 (ファン ソンミョン)
- ・喪葬儀礼の手順に対する比較研究：統一教の喪葬儀礼を中心に (ヤン ピョンスン)
- ・韓国新宗教の西欧に対する認識およびその視覚問題 (チョン ソクファン)
- ・統一教の家庭主義 (キム ハンゼ)
- ・大巡思想の三教冠旺論研究 (イ キョンウォン)

### 第 18 輯 (2008 年 4 月)

<特集：キリスト系新宗教運道と韓国的靈性>

- ・キルソンジュ(吉善宙)とイヨンド(李龍道)の靈性と東学の靈性比較 (キム サンイル)
- ・キリスト教新宗教運道としての統一教と韓国的靈性 (キム ハンゼ)
- ・ヨムムンサン祈禱院運道に見られる宗教的民族主義 (イ ジング)

<研究論文>

- ・カンユウイ(康有為)の大同思想と鼎山宋奎の三同倫理の比較研究 (キム バンリョン)
- ・東学農民革命発生の宗教思想的背景：発生地 of 全北古阜を中心に (キム ゼヨン)
- ・韓国新宗教の深層生態学研究：統一教を中心に (ヤン ピョンスン)
- ・韓国民族宗教の特性と大巡思想 (イ キョンウォン)
- ・公論場に基づいた宗教の意味地平：韓国新宗教の自己認識拡大のための試論 (チョン ソクファン)



第19輯 (2008年10月)

- <特集：ポストモダンと新宗教>
- ・ポストモダンと新宗教 (シン クァンチョル)
  - ・ポストモダン時代の新しい宗教現象 (ウ ヘラ  
ン)
  - ・敗戦後日本のポストモダニズムと宗教研究  
(イ ウォンボム)
- <研究論文>
- ・圓佛教の靈性世界の特徴と意味 (キム トゴ  
ン)
  - ・バハイ信仰の平和論研究 (アン シン)
  - ・新宗教の海外伝来過程に対する研究：統一  
教のアメリカ宣教過程を中心に (ヤン ピョンス  
ン)
  - ・大巡真理会祈祷儀礼の宗教的象徴性に関す  
る研究 (イ キョンウォン)
  - ・‘プロジェクトとしての現代’ 中で見られる韓  
国新宗教の女性観：金剛大道を中心に (イ  
サンイム・・チョン ソクファン)
  - ・韓国人の符籙信仰の歴史 (チャン チョンテ)
  - ・底本等との比較から見られる格菴遺録の編集  
内訳 (チェ チュンヒョン)
  - ・救援のための終末論的カイロスである韓国新  
宗教での開闢 (イム チャンスン)
- <新宗教資料>
- ・大極旗4掛図に含まれた未来学 (キム ヨン  
ジク)

第20輯 (2009年4月)

- <企画論文：ポストモダン社会と韓国新宗教>
- ・ポストモダン社会と天道教 (ユン ソクサン)
  - ・ポストモダン社会と大巡真理会 (パク マリア)
  - ・ポストモダン社会と圓佛教 (キム トリョン)
  - ・ポストモダン社会と統一教 (ヤン ピョンスン)
- <研究論文>
- ・世界平和統一家庭連合の安侍日研究 (ムン  
ソンヨン)
  - ・大巡真理会の致誠儀礼の宗教的特質に関す  
る研究 (イ キョンウォン)
  - ・韓国近代仏教思想の三つの類型 (イ ビョン  
ウク)
  - ・儒教と巫教の楽論 (イ ソクジュ)
  - ・水雲教の宇宙観の理解 (イ チャング)
  - ・『河洛要覽』に見られる『三易大経』の影響  
(チェ チュンヒョン)
- <特集：2009年東アジア新宗教国際学術会  
議>
- ・日本新宗教研究の展開と今後の課題 (井上  
順孝)
  - ・韓国新宗教の発生過程と現況 (イ キョンウ)
  - ・現代中国社会の民間信仰に対する考察 (キ  
ム フン)